

令和8年度 南砺市指定管理者評価委員会 議事録（案）

- 1 日 時 令和8年7月29日（水）午後2時～3時30分
- 2 場 所 市役所 401会議室
- 3 出席者 6名
新町委員長、前田委員、武田委員、米倉委員、山田委員、溝口委員
（欠席：竹田委員）
- 4 事務局 石崎総務部長
行革推進室長（道宗 室長、菊田 主任）
商工企業立地課（脊戸 商工振興係長）
交流観光課（金島 観光施設係長）
森林・農地整備課（平瀬 林政係長）
建設維持課（上坂 公園・河川係長）
こども課（金田 子育て応援係長）
生涯学習・文化振興課（南田 生涯学習・文化振興係長、下田 スポーツ係長） 下田 友康
地域包括ケア課（亀田 長寿介護係長）
福祉課（得能 社会福祉係長）

5 委員長挨拶

今回の評価では、前回に引き続き、全体として評価が「B」以上となっており、市のサービス水準が底上げされている。これは施設運営者や所管課職員の努力の賜物であるが、一方で、非常に危うい潜在的リスクが多数潜んでいると感じる。具体的には、施設の老朽化に伴う突発的な修繕リスク、指定管理料がゼロになった施設の経営状況、昨今の物価高や光熱費の急騰による運営上の収支リスクが挙げられる。人員不足によって事業の継続自体が困難になるような状況も発生しており、今後これらが顕在化すれば、住民サービスを計画的に提供する基盤そのものが崩壊しかねない。

委員の皆様にはこうした潜在的リスクに留意いただき、中身の濃い議論をお願いしたい。

6 議事

- （1）指定管理者の評価方法について事務局から説明
（特に意見なし）
- （2）モニタリング評価結果について事務局から説明

I. 地域援助型3団体について

新町委員長

各施設の特徴について説明してください。

商工企業立地課：

よいとこ井波について、木彫りの猫の企画展が非常に好評であった。八日町通りの随所に木彫りの猫が配置されており、観光客や子どもたちが猫探しを楽しむ企画が人気で、こうした親しみやすい企画展を通じて伝統工芸が広く認知され、身近なものになった。また、作成したパンフレットの効果も非常に大きかった。

交流観光課：

桂湖レクリエーション施設は、残雪の影響で営業開始がゴールデンウィーク後の6月となり、さらに夏場の渇水でボート競技の合宿利用ができなかった。これにより、団体客収入及び全体売上の減少につながった。一方で、現地スタッフが施設の美観を保つ努力を重ねており、アンケートでも利用者から高い評価を得ている。

たいらスキー場は、競技大会を主体としたスキー場であり、大会期間中は一般客の利用が制限される。しかし、積雪が多く長期間滑走可能であるため、コアな一般客の利用が多く、集客自体は大きく心配していない。

山田委員：

モニタリングシートの利用実績判定について、利用者が増えているにも関わらず評価が低い施設がある。評価システムについて説明してほしい。

事務局：

原則、モニタリングシートの記入内容（○・×）に基づき判定しているが、利用実績については、雪不足などの自然条件や特筆すべき事由があった場合にはその理由を付して総合判定を行っている。

新町委員長：

地域援助型は事務局提案の評価で決定してよろしいか。

各委員：

（異議なし）

Ⅱ. 民間競合型5団体について

新町委員長

各施設の特徴について説明してください。

商工企業立地課：

五箇山和紙の里は、インバウンド（訪日外国人観光客）が非常に多く、餅つき体験が人気である。アメリカの旅行代理店と複数年の提携を結んでおり、安定した集客を確保している。

交流観光課：

五箇山合掌の里は、昨年度から新しい指定管理者のもと、意欲的に取り組んでいる。しかし、敷地内で東海北陸自動車の4車線化工事が実施されている影響で利用者は減少したが、年間で利益を出すよう努力している。

桜ヶ池クアガーデンは、利用者が前年に若干の増で、収益は依然マイナスではあるが回復基調にある。指定管理者は経営改善に高い意欲を持って取組んでおり、今後に期待している。ただし、施設の老朽化が大きな課題となっている。

タカンボースキー場は、例年は高い収益を上げている優良施設だが、昨シーズンは、雪不足により年末年始に営業できなかったことが要因で、収益・利用者数ともに大きなマイナスとなった。

イオックス・アローザも、タカンボーと同様に、年末年始の雪不足による稼働減が響き、減収となった。

新町委員長：

タカンボースキー場の評価がSからBに下がった要因は把握しているか。

交流観光課：

雪不足による利用者数の減とそれに伴う収益の減が大きな要因である。

武田委員：

桜ヶ池クアガーデンは施設の老朽化が課題とのことだが、どのような状況か。

修繕費用については、市と指定管理者の負担割合はどうなっているか。

経営が厳しく、従業員が不足しているように感じるが。

交流観光課：

築26年が経過しており、必要な機器・設備の更新が追いついていないのが実情で、修繕については、1件あたり30万円以上の大規模な修繕は市が負担し、30万円未満の軽微な修繕は指定管理者が実施することとなっている。

従業員については、正職員とパートで確保されており、専門的業務以外の施設管理業務を職員で対応することで経費削減にも努めている。

新町委員長：

民間競合型は事務局提案の評価で決定してよろしいか。

各委員：

(異議なし)

Ⅲ. 公共機能保守型5団体について

新町委員長

各施設の特徴について説明してください。

地域包括ケア課：

つつじ荘・デイサービスセンターは、利用者は若干増加しており、利用者アンケートの満足度は5.0点満点と非常に高いホスピタリティを維持している。

光龍館は毎月、絵手紙教室などの様々な催事を企画し、案内チラシを作成して配布するなど、集客に努めている。

井口デイサービスセンターは、送迎を担当していた職員が退職し、代替職員

を確保できなかったため、介護職員が送迎業務をカバーせざるを得なくなった。その結果、介護スタッフが不足し、土曜日および祝日の営業を休止せざるを得なくなった。また、利用者の身体機能を回復させるリハビリに取り組み、利用者の介護度の改善に寄与したが、結果として介護報酬（収入）の減を招いたことも減収の要因の一つである。

新町委員長：

井口デイサービスセンターの状況は、施設が持っているキャパシティを使い切れていない深刻な状態である。人材確保の状況について詳しく聞きたい。

地域包括ケア課：

指定管理者は石川県に本社を置く企業で、他県でも多くの福祉施設を管理運営している実績のある会社である。

武田委員：

具体的にどのようなルートで人材確保に努めているのか。

地域包括ケア課：

地元のハローワークのほか、グループ内の施設からスタッフを融通するなどの調整を図っている。

こども課：

児童館は、0歳から高校生までが無料で利用できる施設であり、収益を生み出す施設ではないため、どれだけ魅力的な運営を展開できるかが鍵となる。各児童館で英会話教室を実施しているほか、「市こどもの権利条例」に基づく自主企画イベントを積極的に開催している。指定管理者は他県での児童館運営の実績も豊富であり、優れた運営ノウハウや職員教育の仕組みを持っており、それが南砺市での魅力的な運営や高いサービス向上に繋がっている。

溝口委員：

一部の児童館の利用実績が伸びているが、具体的にどの年代の利用が増えているのか。

また、自主事業の英会話教室は、どの児童館で実施して、どの年代のこどもが参加しているか。

こども課：

児童館は放課後児童クラブが併設されているため、小学生（特に1年生～3年生）の利用が増加している。一方、令和7年度に児童館以外の施設で放課後児童クラブが新設された福野児童センターでは利用者数が前年比で大きく減少している。

英会話教室は4館すべてで実施しており、いずれも小学校低学年（1年生から3年生）の利用者が多い。

米倉委員：

光龍館の利用状況や1日あたりの利用者数を教えてほしい。

地域包括ケア課：

光龍館は、明治18年に建てられた歴史的文化財を有効活用した施設で、主に60歳以上の高齢者を対象に、お風呂の提供や大広間でのカラオケなどの憩いの場を提供している。利用料金は入場310円、カラオケ利用は別途310円で、年間で約8,000人、1日約40名が利用している。また、高齢者が来館しやすいよう、昨年からコミュニティバス（市営バス）のバス停を施設の目の前に設置するなどのアクセス改善を行っている。

新町委員長：

民間競合型は事務局提案の評価で決定してよろしいか。

各委員：

（異議なし）

IV. 公共機能増進型11団体について

新町委員長

各施設の特徴について説明してください。

建設維持課：

閑乗寺公園は、全国的なキャンプブームの落ち着きや、ツキノワグマの頻繁な出没による不安が影響し、利用者数が前年比で減少した一方、令和6年度にトイレ増設したことで管理経費が増加している。自主イベントも積極的に開催しており、利用者アンケート（151件）の結果が平均4.7点と高く、利用者満足度が非常に高い。

福祉課：

ゆ〜ゆうランド花椿は露天風呂の改修を行い、新規顧客は増加している。一方、回数券の売上が減少しリピーター数が減少しているほか、館内食堂の売上も減少が続いており、メニュー改善に努めている。自主事業である「カラオケ大会」は高評価である。

ラフォーレは利用者が増加しており、市外からの利用者も多い。カフェが入居したほか、館内にキッズスペースを設置したこともあり、多世帯交流の場にもなっている。

新町委員長：

ラフォーレの多世帯交流とは、具体的にどのような取り組みを行っているのか。

福祉課：

指定管理者が中心となって、地域の高齢者と子連れ世帯（若い母親や子どもたち）が一緒に参加して交流できるようなイベントを定期的に企画・実施し、

好評を博している。

森林・農地整備課：

いのくち椿館は、アンケートで「清潔感」「接客サービス」が非常に高く評価されている。課題は、毎年開催される椿まつり以外の時期の集客である。カルチャー教室の利用は常連（固定客）に偏っており、園芸植物園から引き継いだ各種園芸講座などを活かした新規来場者の開拓を期待している。

新町委員長：

いのくち椿館について、前年度比での減少傾向を適切に分析し、対策を講じてほしい。

商工企業立地課：

よいとこ井波について、館内の飲食テナント（レストラン）が撤退したため、現在は、地元の仕出し屋や料理屋からデリバリー（配膳）し、食事会場として提供する外部連携を行っている。井波木彫りの里で受け入れきれない団体客を受け入れるなど、周辺施設との連携で利用者と売上の増加に努めている。

福光会館は、館内にプラレールを設置して自由に遊べるコーナーを設けるなど、親子連れに居場所を提供して集客に努めている。

クリエイタープラザは、地元企業と連携して、井波彫刻体験、五箇山和紙の小物作り、干し柿作り、かぶら寿し作り体験などの体験型ワークショップを実施している。カフェが昨年１２月に閉店したが、その後、速やかに募集を行って次の入居者が決定している。

生涯学習・文化振興課：

クレ射撃場は、利用者が限られる専門性が高い施設である。北陸随一の充実した施設であり、他県からの利用者も多い。指定管理料が０円の施設で、必要な修繕は指定管理者が自己負担で行っているが、令和７年度に利用料金を値上げして適正な運営に努めている。強風による休館はホームページや SNS で積極的に情報発信を行い、利用者への周知に努めている。

体育施設（体育館・グラウンドなど）は、４つのスポーツクラブが共同企業体を結成して運営している。一部の施設で利用者数が減少しており、今後は施設の老朽化による大規模修繕が懸念される。

城端温水プールは、市内唯一の日本水泳連名公認の競技施設であり、市外からも優秀な選手が集まる全国レベルの施設である。

文化施設は、管理自体は適切で安心できる環境を維持しているが、施設を利用する文化・芸術団体が会員の高齢化により解散が相次いでおり、利用者が減少している。また、物価高に加えて電気料金の高騰が施設の維持管理において非常に大きな負担となっている。

新町委員長：

文化施設については、利用実績がすべて目標未達成となっている。指定管理者としっかりコミュニケーションをとって対策してほしい。

武田委員：

よいとこ井波の食事処はなくなったのか。

団体向けの昼食会場のキャパシティはどの程度か。

商工企業立地課：

撤退したため、今は無い。

1階レストランは30名前後であるが、2階も昼食を受け入れられるように改修を行っている。

新町委員長：

民間競合型は事務局提案の評価で決定してよろしいか。

各委員：

(異議なし)

事務局：

参考として指定管理者の経営状況について報告する。

全24団体のうち、資本欠損2団体、債務超過1団体あり、経営改善計画書等の提出を求める予定である。

7 総括

新町委員長：

全体的にはB評価以上で良好に見えるが、深刻な人材不足、施設の老朽化と修繕リスク、指定管理料ゼロ円施設の運営など、経営環境の悪化をこのまま放置すれば、将来的にC・D評価に転落する可能性があり、市民への安定的・継続的なサービス提供の基盤が完全に失われる可能性がある。

現時点でB判定だから安心と考えるのではなく、この厳しい現状と極めて深刻な「潜在的リスク」があることを十分に認識し、今後の指定管理料のあり方、修繕負担の基準、人材確保の支援などに今回の評価委員会の意見を反映させていただきたい。

8 閉会あいさつ（総務部長）

南砺市を取り巻く環境は、人口減少、少子高齢化、そして記録的な暖冬や気候変動など、非常に厳しい局面に立たされている。しかし、厳しい環境にあっても、知恵を絞り素晴らしい経営努力を重ねている指定管理者も存在する。こうした優れた成功事例を、いかに他の施設へ横展開できるか。また、厳しい財務状況や人材不足に直面している施設に対して、市としてどのように具体的な改善指導や支援を行っていくか。これこそが、この指定管理者評価委員会の大きな役割であると感じている。

本日は、貴重なご意見をありがとうございました。

以 上